

日本カリキュラム学会

第15回 研究集会のお知らせ

代表理事: 松下 佳代
研究委員会委員長: 上地 完治

テーマ

ドイツ教育学におけるカリキュラム研究

ー日本カリキュラム学会研究奨励賞受賞者からの報告ー

趣旨

本研究集会では、2023年度に本学会の研究奨励賞を受賞された2名の若手研究者にその研究成果を報告してもらい、研究動向ならびに研究の方向性について理解を深めることを目的としている。2名の会員は、どちらもドイツを研究フィールドとしており、期せずしてテーマはドイツ教育学におけるカリキュラム研究となった。

田中怜会員は、『学校と生活を接続するードイツの改革教育的な授業の理論と実践』(春風社、2022年)が研究奨励賞の対象となるとともに、同年の第34回大会自由研究発表「『鍵的問題』はなにがどう批判されたのかー一般陶冶としての問題志向カリキュラムの可能性と限界ー」に対する優秀発表賞も合わせて受賞された。田中会員には、両賞をふまえて「《あいだ》の教授学ー学校と生活の接続を問う」と題し、「改革教育」「鍵的問題」「教育化」といったドイツ教育学に固有の諸概念を基盤としたカリキュラム研究の展望について報告していただく。

宮本勇一会員は、『フンボルトの陶冶理論と教育改革ー学問中心カリキュラムの再考』(春風社、2023年)が研究奨励賞の対象となった。宮本会員には、同書をふまえて「時代錯誤の思考様式?ードイツ教授(育)学の時代的限界を現代カリキュラム改革の批判軸に据えるー」と題し、ドイツ教育学の思考様式の一つを取り上げて、それが今日の教育学・教育改革の中で迎えている限界を捉え、同時にこうした限界(時代錯誤性)を現状打破の一步に据える試みを報告していただく。

当日は、両会員からの発表を中心に、それぞれの報告に対して質疑応答の時間を設ける。シンポジウム形式はとらないが、最後に希望者によるオンライン交流会を行って、参加者から両会員に対して直接質問したり、参加者どうして自由に交流したりする場を設けたい。

日時: 2025年3月1日(土) 14:00~17:00

(※16:30~17:00はオンラインで交流会を実施します)

参加方法: オンライン (Zoom ミーティング又はウェビナー)

※13:40頃から入室可。

報告者:

○田中 怜 会員 (筑波大学)

○宮本 勇一 会員 (岡山大学)

司会:

小柳和喜雄 (関西大学)、樋口直宏 (筑波大学)

参加費 無料 (学会員でない方にもご参加いただけます)

参加申込について

参加希望者は学会ホームページから、2025年2月24日(月)までにお申し込みをお願いします。申込者には登録メールアドレス宛に自動的に接続情報が送付されます。届かない場合は、「迷惑メール」のフォルダに入っていないかご確認ください。接続情報が記載されたメールを紛失した場合は、再度お申し込みください。